

第6回 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 開催結果概要

◆ タンチョウも住めるまちづくりに向けて、タンチョウの生息環境整備と地域づくりを議論！

- 開始日時：令和3年2月24日(水) 15:30~17:10
- 開催場所：オンライン開催 (Webexを使用)
- 出席者：計26名 (うち委員13名、委員代理1名)



主な検討内容 ●事務局からの報告 ○委員からの指摘事項

(1) タンチョウの飛来・繁殖状況および来年度の対応について

- 来年度も繁殖が期待されることから、想定されるタンチョウの行動と協議会の対応案を検討。
- 周囲に採食できる環境があれば、家族での越冬も可能と考えられる。



舞鶴遊水地内のタンチョウ親子
(令和2年8月7日撮影)

(2) 生息環境専門部会の取組について

- 植生、アライグマ生息状況等の環境調査を実施。
- 冬季の結氷状況等を調査し、流入水量を増やすために水路開削を実施。
- 環境省は、来年度繁殖した場合、繁殖状況のドローン撮影および雛に足環を付ける標識調査を検討している。

(3) 地域づくり専門部会の取組について

- WGを主体として、情報発信や地域振興に向けた取組を実施。
- 専門家の解説のもと舞鶴遊水地の現地見学会を開催。
- 現地見学会について、同様の取組を継続することが望ましい。

嶮淵右岸樋門吐口



開放水面が見られる

新水路開削箇所



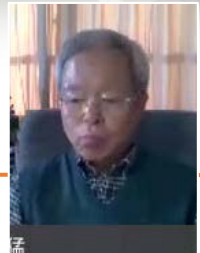
開削区間



座長 中村太士教授



小磯修二 委員
北海道観光振興機構



赤坂猛 委員

総括

- 今後周辺地域でも取組を進める議論がある中で、改めて長沼町が地域政策としてどう取り組むのかという議論も必要。
- タンチョウの定着が急速に進展しており、広域での取組が可能な体制を検討する必要がある。広域での取組を考えることで長沼町の取組にもフィードバックされる。

第6回 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 議事概要

〔日 時〕：令和3年2月24日（水） 15:30～17:10

〔場 所〕：オンライン開催（Webex を使用）

〔出席者〕：計26名（うち委員13名、委員代理1名）

（1）タンチョウの飛来・繁殖状況および来年度の対応について

- 事務局より、今後の舞鶴遊水地における繁殖時の対応案を提示し、委員にご確認いただいた。
- 事務局より、冬季間は車両通行止めを行っている舞鶴遊水地について、通行止めの解除時期を雪融け時期にもよるが3月下旬もしくは4月上旬と想定していることを報告した。また、タンチョウの飛来状況等によっては、呼び戻す会等の調査目的の立ち入りは可能となるよう対応する考えであることを報告した。
- 繁殖が一度失敗しても再産卵する可能性があるため、留意する必要がある。
- 長沼タンチョウ見守り隊という組織を立ち上げて、一般のボランティアも含めた30名程度で見守り活動を行っている。
- タンチョウの繁殖頻度はつがいによって異なるが、今年も繁殖することを期待している。
- 幌内川の水が遊水地内に流入するようになったので、冬季もある程度採食可能。しかし3～4羽が採食できる環境ではないと考えられる。周囲に採食できる環境があれば、家族での越冬も可能と考えられる。
- 近年周辺で作付が増えた飼料用とうもろこしは、秋は刈り倒すのみで、土に鋤きこむのは春になってから。融雪剤散布をすれば冬季に刈り跡や落ち穂が採食資源になる可能性がある。

（2）生息環境専門部会の取組状況について

- 事務局より、植生、アライグマ生息状況等の環境調査結果を報告した。
- 事務局より、冬季の流入水量を増やすために水路開削した結果を報告した。
- 環境省は、来年度繁殖した場合、繁殖状況のドローン撮影および雛に足環を付ける標識調査を検討している。
- 足環の装着は地元の人への参加が望ましい。
- 雛に足環の装着をする場合は呼び戻す会として協力したい。
- 開放水面の凍結を回避するために、融雪剤を散布する方法も考えられるが、水質や生物環境への悪影響の可能性もある。遊水地内の開放水面だけでなく、周辺環境も含めた生息環境整備を検討すべき。
- 協議会としては地域住民との軋轢を防ぐ目的から餌撒きは阻止したい。見守り活動な

どでの注意喚起が望まれる。

(3) 地域づくり専門部会の取組状況について

- 事務局より、WGを主体とした情報発信や地域振興に向けた取組状況を報告した。
- 事務局より、専門家の解説のもと開催した舞鶴遊水地の現地見学会の開催結果及びアンケート集計結果を報告した。
- 小学校の出前授業で自分の口でタンチョウのことを話す機会を持つことなどが、地域づくりを担う人々のモチベーションになっている。
- 小学校の跡地利用などで民間事業者と連携する検討が進んでいるが、行政は受け身ではなく、タンチョウも住めるまちづくりによって目指す理念や目標を示すことが必要。特に広域的にタンチョウが飛来すると、周辺地域においても取組が出てくると予想されるが、改めて長沼町としての取組姿勢を議論することも求められる。
- 現地見学会では、バスの中で正富先生に解説いただき、非常に勉強になった。同様の取組を継続することが望ましい。
- 舞鶴遊水地での野鳥観察会とバードセーバー作りのイベントがきっかけとなり、長沼おっ鳥クラブへの子どもの新規入会があった。
- タンチョウ関連商品が昨年大いに増え、関心が高まっていると感じている。
- 無農薬・減農薬などのタンチョウと共生する農業を推進し、居住環境や子育て環境としてもイメージアップすることで移住施策や観光施策などへも繋げられると良い。
- 来訪者による農道への進入を抑止し、周辺農家への迷惑を軽減するためにも、タンチョウのPRや舞鶴遊水地の位置表示をする看板が町内に多くあると良い。
- 今後は長沼町周辺の市町など広域的な取組に繋がれば良いと考えており、北海道もできることを行いたい。

【総括】

- 今後周辺地域でも取組を進める議論がある中で、改めて長沼町が地域政策としてどう取り組むのかという議論も必要。
- タンチョウの定着が急速に進展しており、広域での取組が可能な体制を検討する必要がある。広域での取組を考えることが長沼町の取組にもフィードバックされる。

以上